

歴史学専攻（修士課程）の3つのポリシー

【教育の理念】

歴史学専攻修士課程は、日本史学・東洋史学・西洋史学・考古学の4コースを設けており、幅広い視野に立って精深な学識を授け、専門分野における研究能力または専門性を要する職業等に必要の高度な能力を養うことを教育の理念とする。そのため歴史の文献研究だけでなく、アーカイブズ論、記録史料学といった今後の研究動向を見据えた知的情報整理・保存・利用の研究も取り入れている。特に国内や海外の史料に依拠した研究指導は本専攻の特色である。また、考古学コースでは国内外の発掘調査を行い、それに基づく研究指導も行っている。

歴史学専攻の4コースは、高等学校をはじめとする教育界や博物館・文書館・史料館・教育委員会などで、専門職として十分に活躍し得るだけの人格と専門的研究能力に裏打ちされた力量を兼ね備えた人材の育成を目的としている。

【修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

歴史学専攻修士課程は、教育の理念に基づいて定められた下記3つの能力を身につけ、所定の期間在学し、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」に沿った開講科目を30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出してその審査および最終試験に合格した院生に対して修了を認定し、修士（歴史学）の学位を授与する。

(DP1) 専門分野の知識や技能の活用力

日本史学・東洋史学・西洋史学・考古学の各専門分野に関する高度で専門的な学識と、幅広い知見を身につけている。また、本専攻の伝統である史資料に依拠した実証的な研究能力を修得することによって、専門分野における先導者として、教育界や博物館・文書館等で歴史学の成果を社会に還元していくことができる。

(DP2) 情報分析、課題設定および問題解決能力

基礎的な知識や先行研究を踏まえ、自ら主体的に課題を設定する力と、研究の素材となる史資料の所在を調査し、それら史資料を収集・解読・分析して適正に判断・思考しながら、問題解決までの道筋を論理的に展開できる実行力や新たな知見を見出す能力を兼ね備えている。

(DP3) コミュニケーション能力

史資料の調査やフィールドワーク、学会運営、学会発表、論文作成等を通じて、自らの考えを論理的かつ明確に伝えると同時に、他者の考えと価値観を尊重しつつ、専門的な知見から論理的に意見を述べるなど、主体的に協働することができる。また、研究倫理を踏まえ、適切な方法やツールを用いて研究活動を進め、世界に向けて自らの考えを発信することができる。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

歴史学専攻修士課程では、「修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた3つの能力を養成するために、歴史学専攻4コースの学問分野・領域の特性に応じた2年間の教育課程を提供する。その課程には、単位互換協定校（歴史学分野10大学、考古学分野2大学）との単位互換制度も設けている。教育課程は、歴史学分野・学問領域における学術研究の最新の成果を踏まえながら、常に自己点検・評価を行い、不断の改善に努める。そして、課程を通じた学習成果として提出される、学位論文の審査基準をコース毎に明確にし、そこから得られた評価結果を基に、コース毎にコースワーク・リサーチワークの改善を図る。

さらに、情報化社会の無限に溢れる情報から論文盗用等が行われないよう、カリキュラムの全ての要素の中で研究倫理に関する意識の醸成を図る。

教育内容、教育方法、評価については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 講義科目は、広い領域にわたる学術研究の基礎を培い、社会の基本的要請、たとえば教育機関あるいは研究機関への要請に応え得るよう高度の能力を養うために開講する。
- 2) 演習科目は、本専攻の伝統的実証史学の追究を指導し、広い視野に立ちながら多様な史資料を駆使した修士論文作成のための研究能力養成の指導を行う。
- 3) その他、課外授業（実習）として日本史学コースでは古文書調査・整理、考古学コースでは国内外で発掘調査を行い、より実践的な技能・能力の修得を目指す。
- 4) 1～3の集大成として提出される修士論文を完成させ、それについて、審査および最終試験を実施する。

2. 教育方法

- 1) 講義科目では、史料批判・解釈・操作等の基礎的な研究手法や研究能力を体得させるため、少人数での個別・グループ形式で授業を行う。
- 2) 演習科目を中心とする、修士論文の作成においては、学界の研究動向を考慮しながら、教員と学生の間で「学位授与の方針」および「学位論文審査基準」を共有し、密接なコミュニケーションを取りながら指導する。
- 3) 課外授業（実習）においては、調査・実践の計画の立案、報告書の作成、事後の検証について、指導を行う。
- 4) それぞれの授業科目を、組織的に履修することにより、専門性を追求しながらも狭量な思考に偏らないよう、指導教員を中心に指導を行う。
- 5) 修士論文の審査にあたっては、主査1名と副査2名以上で構成される審査委員により、「学位論文審査基準」に則り厳格な審査がなされる。最終試験においては、「学位授与の方針」に基づき、学位授与に必要とされる専門的な学識、技能、研究能力を身につけていることを詳細に確認する。
- 6) 研究倫理教育は、専攻に抛らない一般的な内容については、eラーニングなどの方法を用いて広く提供し、歴史学分野特有の研究倫理については、研究指導を通じて指導することにより補完する。

7) 学生調査・アンケート等の結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 評価

修士課程では、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーに基づき、学生の入学時から修了後までの成長を視野に入れ、歴史学専攻4コースにおいて、教育課程レベル・科目レベルで修士論文を考慮しながら学修成果の評価・測定を行う。

4. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

授業科目等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	各科目等のねらい
講義科目	4	1・2	◎	○	○	専門分野の知識および史資料の収集・解釈・分析などの研究活動上必要な知識や手段について体系的に身につける。
演習科目	4	1・2	○	◎	◎	個別の研究テーマに基づき、指導教員との密接なコミュニケーションを取り、発表や議論を繰り返し、修士論文作成に役立てる。
実習科目	該当科目なし					
修士論文	—	—	○	◎	◎	2年間の学修の集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する。
研究倫理教育	—	1	○	○	◎	研究者として求められる基本的な研究倫理を身につけ、意識して史資料調査や研究活動を行う。

【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

歴史学専攻修士課程は、日本史学・東洋史学・西洋史学・考古学の各分野において、学士課程における基礎的な教育を修得し終え、さらに大学院で各分野の専門的な知識、研究方法を学び、歴史学の研究能力を養い、身につけることによって、研究・教育など他方面での職業的能力を生かしていきたいと考える人材を受け入れる。また、歴史学分野における広い視野と精深な学識を希求し、先導者として個人の様々な能力および高度な専門知識を社会に発信する意欲を持つ人材を求める。

こうした理解を持った受験生を適正かつ公正に選抜するため、歴史学専攻の特性に応じた、多面的・総合的な視点による入学者選抜を行う。

1. 求める学生像

- (AP1) 歴史学分野に関わる知識や技能を幅広く修得し、大学院での学修に必要な基礎学力を有している。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 歴史学専攻で学んだ専門的知識や技能を社会に還元し、貢献しようとする強い意欲と目的意識を持つ。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 社会全般の事象について主体的に課題を設定し、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者に

わかりやすく根拠をもって論理を展開することができる。〔思考力、判断力、表現力〕

(AP4) 多様な他者の考えや価値観を尊重して協働しつつ、自らの考えを適切なツールを用いて発信する意欲を持つ。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

入学試験制度	選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学試験制度のねらい
一般入学試験	出願書類	○	◎	◎		出願書類には、卒業論文の要旨(800字以内)もしくは研究テーマに関するレポート(同)が必要となる。そして、学士課程レベルの基礎的な専門知識があると認められる者に対し、研究に必要な専門知識や語学力を重視した選抜を行う。筆記試験は記述式で行い、専門科目試験(歴史学一般)と外国語試験(英語)の2科目で実施される。面接試験では、歴史学専攻志望の動機、修了後の進路希望、専門知識と研究意欲の確認等を行う。
	筆記試験	◎		○	○	
	面接試験	◎	◎	○	○	
社会人特別入学試験	実施していない					
外国人留学生入学試験	実施していない					